



GeneXus 16 Basic コース

(e ラーニング)

受講者端末準備のご案内

Copyright © GeneXus Japan, inc.2016-2020.

All rights reserved. 本書は、GeneXus Japan ,inc. の明示的同意なしには如何なるメディアにも複写することはできません。本書の内容は個人的使用のみを目的として提供するものです。

登録商標

GeneXus™ は GeneXus S.A. の登録商標です。また、本書において取り上げているその他の商標は、すべてそれぞれの所有者の所有物です。

はじめに.....	3
A. GENEXUS 利用環境とアプリ実行環境の準備.....	4
B. GENEXUS 16 のインストールとライセンス請求.....	8
1. GeneXus のインストール.....	8
2. ライセンス請求 (開講日 10 日前よりライセンス請求受付).....	8
3. ライセンス取得.....	9
C. GENEXUS 開発環境の動作確認.....	10

はじめに

この度は、GeneXus 16 Basic コース（e ラーニング）のお申し込みを頂き、誠にありがとうございます。

本書では本コースを受講するために必要となる端末の準備について記載しています。

☆自社の開発環境およびライセンスを使って受講される方はこの準備は不要です。

☆環境構築（GeneXus のインストール、ライセンス請求など）に関するお問い合わせは

パートナー企業を通じてのお申込みの場合： パートナーご担当者様までご連絡ください。

ジェネクス・ジャパンへ直接お申込みの場合： info@genexus.jp までご連絡ください。

A. GeneXus 利用環境とアプリ実行環境の準備

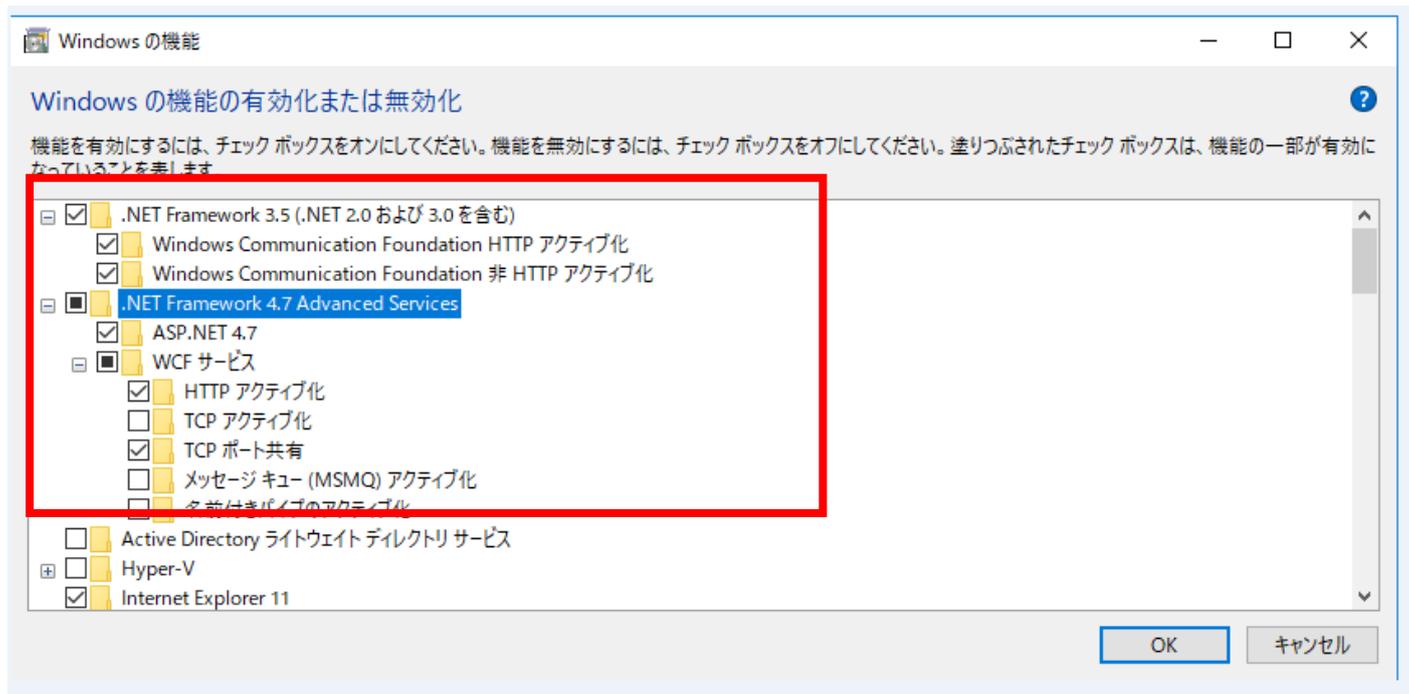
1. インターネットインフォメーションサービス (IIS) および Microsoft .Net Framework 4.7.1 以上のインストール

本研修で対象とする GeneXus 16 U8 には 上記.Net Framework バージョンのインストールが求められています。¹

コントロールパネルを起動 > カテゴリ表示にして「プログラム」を選択 > 「Windows 機能の有効化または無効化」を選択します。

図 1、図 2 (Windows 10 の例) のスクリーンショットの赤枠内でチェックマークが付いている項目をすべて選び、OK をクリックしてください。

図 1 (Windows 10 の例)



¹補足 GeneXus 16 hardware and software requirements

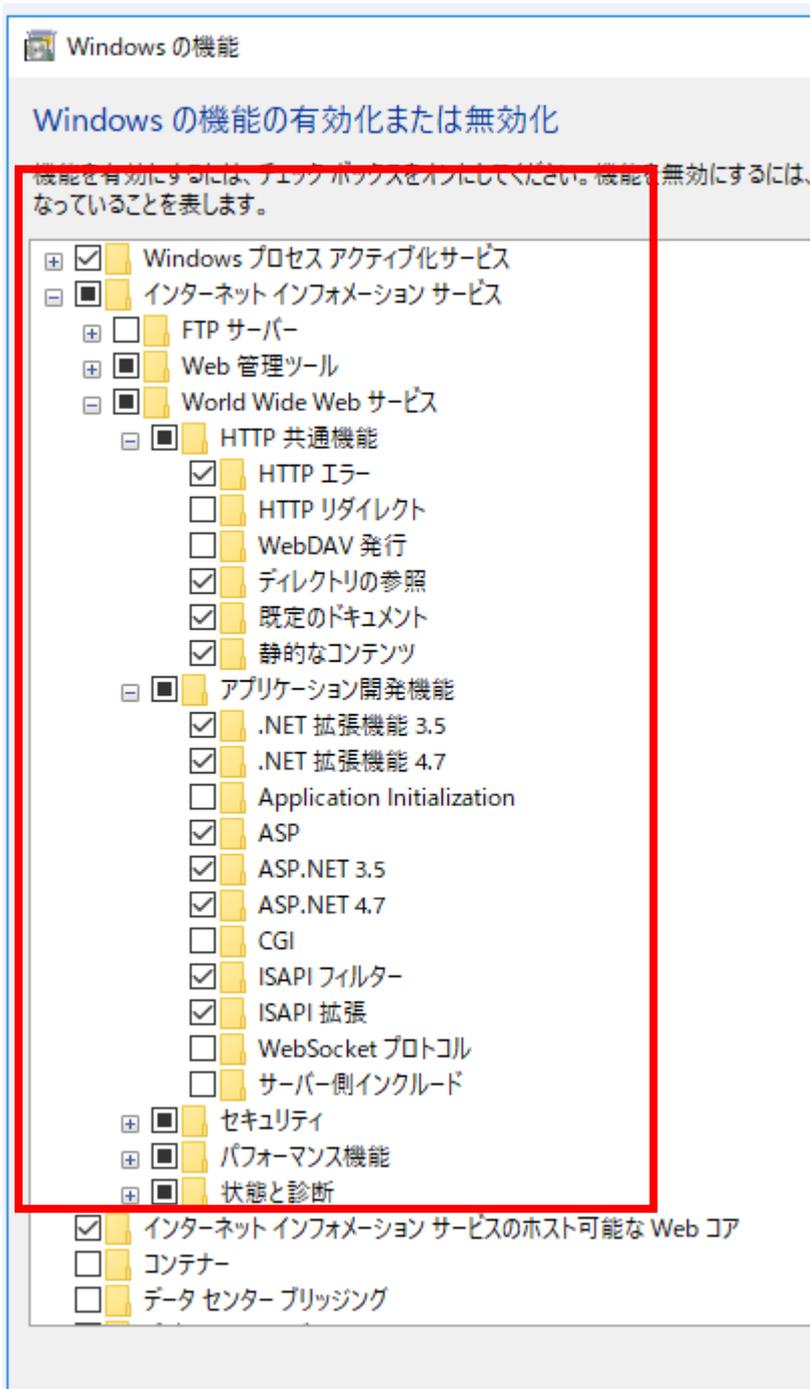
<https://wiki.genexus.com/commwiki/servlet/wiki?44144>

注意) 本研修では U8 を推奨しています。それ以降の Upgrade を利用される場合は必要な要件を満たしてください。

GeneXus 16 hardware and software requirements (GeneXus 16 最新版)

<https://wiki.genexus.com/commwiki/servlet/wiki?30900>

図 2 (Windows 10 の場合)

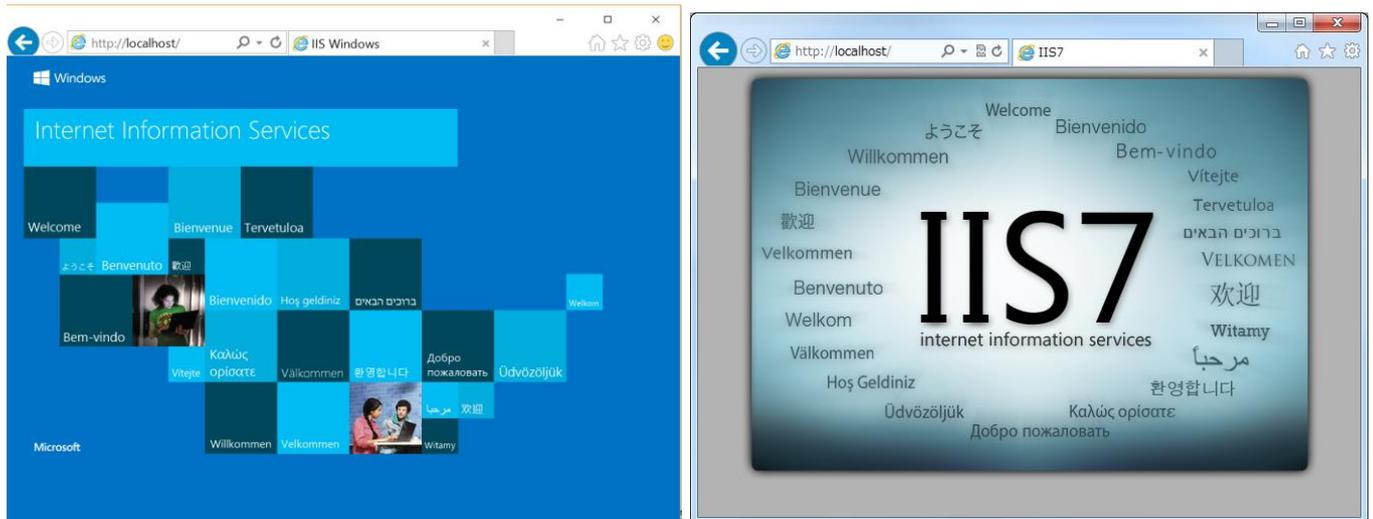


2. IIS のインストール確認

ブラウザから以下の URL を参照し、図 3 のいずれかのスクリーンショットと同様の画面が表示されることを確認してください。

<http://localhost/>

図 3



※バージョンによって表示が変わります。

3. Microsoft URL Rewrite 2.0 のインストール

以下のページからインストーラーをダウンロードし、インストールしてください：

<https://www.iis.net/downloads/microsoft/url-rewrite#additionalDownloads>

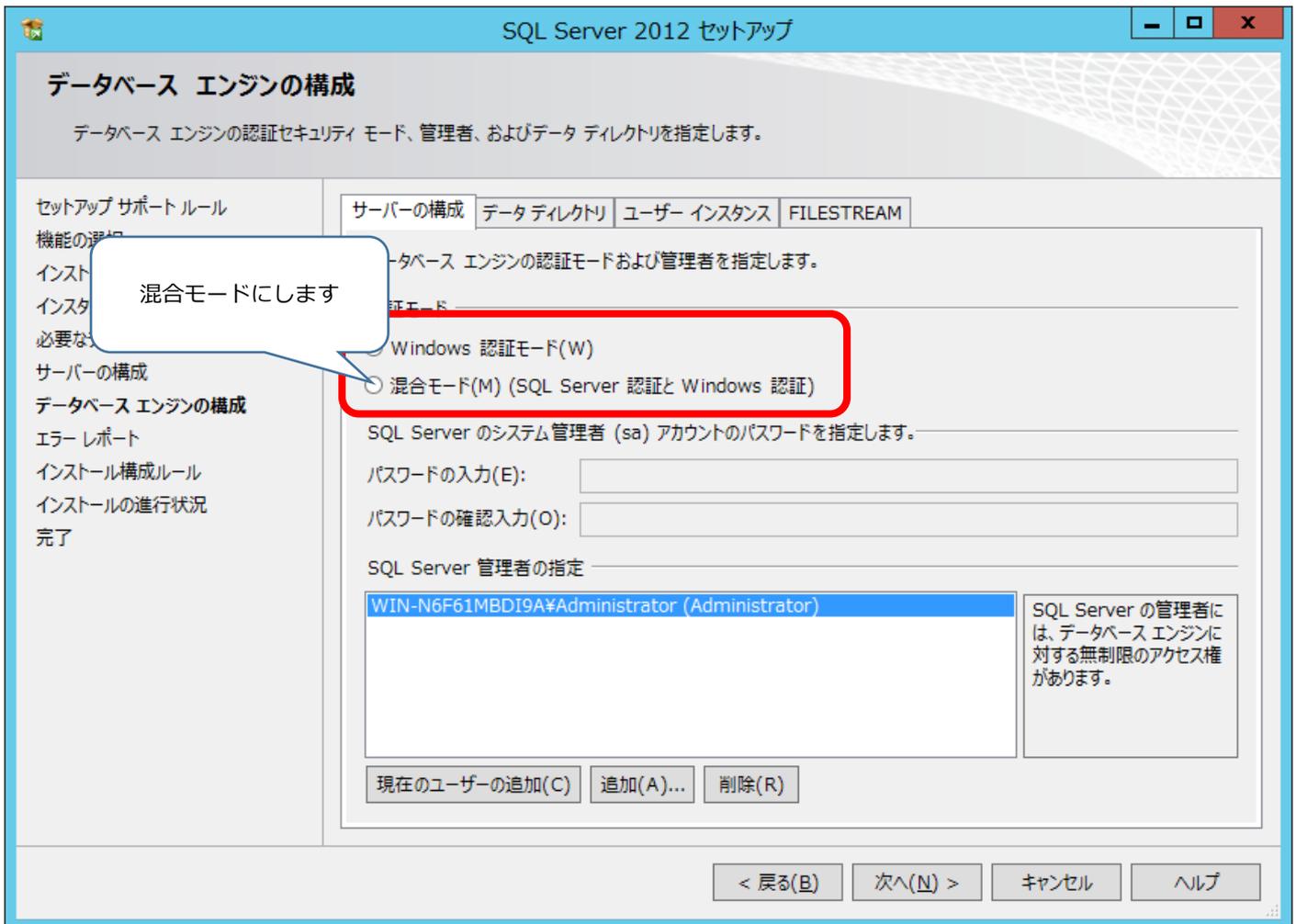
4. SQL Server のインストール (Microsoft SQL Server 2012 Express - Express Edition)

以下のページからインストーラーをダウンロードし、インストールします²：

<https://www.microsoft.com/ja-JP/download/details.aspx?id=29062>

認証モードは次図の例を参考に「混合モード」を選択し、システム管理者 ID、パスワードを受講者に伝えてください。

² Basic コースで紹介を行っている GXflow では、SQL Server 2012 以上が求められています。



5. Management Studio のインストール (オプション)

Management Studio (トラブルシューティングのために利用する場合があります。) :

<https://docs.microsoft.com/en-us/sql/ssms/download-sql-server-management-studio-ssms?view=sql-server-2017>

6. ブラウザの構成

本研修ではインターネットブラウザとして Chrome を使った試作を推奨しています。

OS の既定のブラウザとして指定してください :

<https://www.google.co.jp/chrome/browser/desktop/>

B. GeneXus 16 のインストールとライセンス請求

GeneXus 16 upgrade8 のインストールとライセンス請求

以下の URL から「GeneXus 16 U8 (2020 年 4 月 28 日公開)」をダウンロードしてください※ :

http://internal.genexus.jp/downloads/GX16U8_JP.zip

以下の URL から「GeneXus 16 インストールガイド」をダウンロードしてください :

http://internal.genexus.jp/downloads/InstructionalDocuments/GX16_InstallGuide.zip

1. GeneXus のインストール

「GeneXus 16 インストールガイド」の 8 ページ「1. GeneXus の新規利用」の操作にそって GeneXus のインストールをしてください。OS が 64 bit の場合は、Program Files (X86) にインストールする必要があります。

2. ライセンス請求 (開講日 10 日前よりライセンス請求受付)

①ライセンス発行には会社情報の登録が必要となります。

メール「【GXJ】GeneXus 16 Basic コース (e ラーニング) のお申込みお礼」に、Sample PO (添付 : Excel 形式) という資料を添付しています。セルが黄色く塗りつぶされている部分が必須項目となります。「英語」でご入力ください。

②「GeneXus 16 インストールガイド」の 35 ページ「E) ライセンス請求」を参照し、GeneXus のライセンスの請求ファイルを作成してください。研修で必要なライセンスは次の通りです。

Development Environment - Japanese Edition

.Net Generator

GXFlow

Smart Devices Generator

③上記①の PO と②のライセンス請求ファイルを、メールにて添付して GeneXus のライセンスを請求してください。

ライセンス番号の記入は不要です。

【ライセンス請求先メールアドレス① パートナー様よりお申し込みいただいたお客様】

⇒パートナー様よりご指定のアドレスを経由してライセンス請求を行ってください。

【ライセンス請求先メールアドレス② パートナーご担当者様および弊社直販のお客様】

GX-J keymaster <keymaster@genexus.jp> 担当者宛て

重要：ライセンスの発行は GeneXus 社（ウルグアイ）で行うため、時差の都合上、最短で請求日の翌営業日となります。日本時間の金曜日に請求された場合には、翌月曜日のお渡しとなります。

ライセンス請求受付時間

土日祝日・年末年始を除く 9:00～16:00

時間外でのご請求は翌営業日の対応となりますので、予めご了承ください。

本研修は、.net+SQLserver 環境のみサポートしており、Java 環境などお客様個別の環境のサポートはしていません。詳細は各パートナー様にご相談ください。

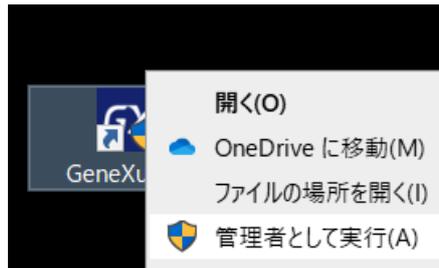
3.ライセンス取得

「GeneXus 16 インストールガイド」の 41 ページ（「F）ライセンスの取込み」）を参照し、GeneXus のライセンスを有効化してください。

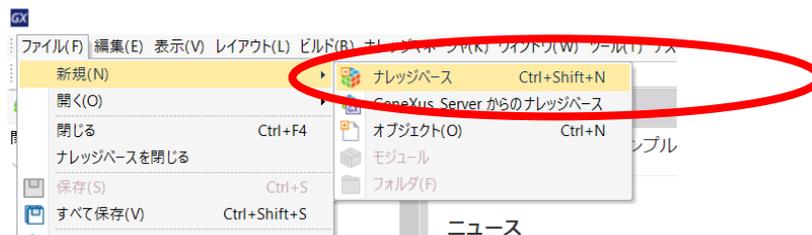
C. GeneXus 開発環境の動作確認

ここでは動作確認のため、生成アプリケーションからデータベースに接続できるまでを確認します（下記の内容の詳細については、eラーニングのコンテンツのなかで講師が説明します）。

1. デスクトップより GeneXus16 アイコンを右クリックして「管理者として実行(A)」を選択します。



2. ナレッジベースを新規に作成します。



名前に「KB1」と入力し、プロトタイプ環境に「C# Environment」を選択し、「作成」をクリックします。³



³ もし「信頼ユーザーは x x x (ユーザー名) サーバー上ではデータベース作成権限を持っていません。」が表示される場合、GeneXus の「ナレッジベースを作成」ダイアログより「詳細(A)」をクリックし、サーバー名を確認してください。「A GeneXus 利用環境とアプリケーション実行環境の準備」の「4. SQL Server のインストール (Microsoft® SQL Server® 2008 R2 SP2 - Express Edition)」でインストールしたインスタンス名を指定する必要があります 例：localhost¥sqlcxpress）。

上記のサーバー名の確認の上で、次のうち 2 つのうちどちらかの対応を検討してください。

1. 次ページを参考にユーザー ID、パスワード認証による接続 (SQL サーバー接続) を使用して適切なユーザー（例：sa）でログインする。
2. SQL サーバーのマネジメントスタジオより windows の接続ユーザー名に dbcreator 権限を付与する。

■ (参考) SQL サーバーへの接続に「SQL サーバー接続」を利用するには

SQL サーバーとの接続方法は、基本的にお使いの環境に合わせて指定いただく必要があります。本マニュアルに沿ってご自身で SQLserver をインストールした場合は、通常 Windows 認証で構成できますので、以下の操作は不要です。SQLserver との接続エラー時の回避方法の一例としてご利用ください。

「作成」ボタンをクリックする前に次の設定を行います。

ナレッジベースを作成するには、名前を入力し、ディレクトリーと希望のプロトタイプ環境を選択してください。

名前(N): KB1
 ディレクトリー(D): C:\Models\ ...
 プロトタイプ環境(P): C# C# Environment
 言語(L): Japanese

ナレッジベースストレージ

サーバー名(S): GX-P053*SQLEXPRESS
 データベース名(A): GX_KB_KB1
 照合(C): Japanese_CI_AS

Windows NT 統合認証を使用(W)
 特定のユーザー ID とパスワードを使用(U)
 ユーザー ID (U):
 パスワード(P):
 パスワードを保存(V)
 ナレッジベースフォルダにデータファイルを作成(D)

ナレッジベースの作成場所

フォルダ: ナレッジベースは既に存在します。
 サーバー: GX-P053*SQLEXPRESS
 データベース: GX_KB_KB1

作成 キャンセル

① 「詳細」ボタンをクリックします。（「詳細」ボタンをクリックすると、黄色の太線で囲んだ部分が表示され、「詳細」ボタンが「標準」ボタン（赤太線）に変わります。）

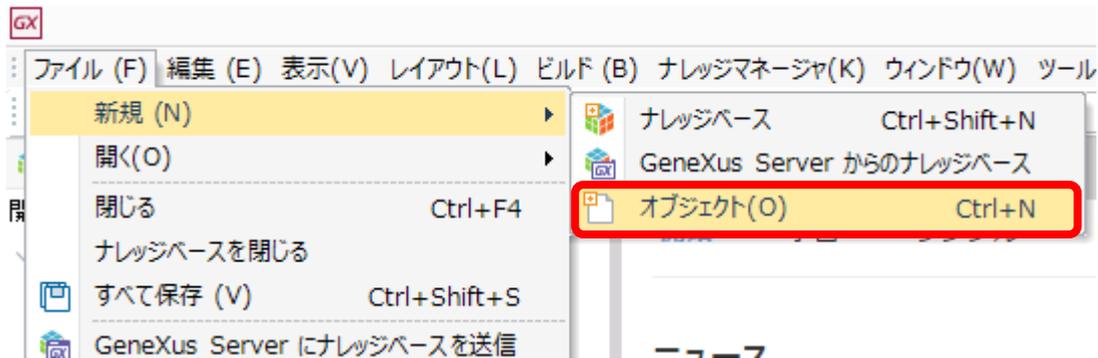
② SQL サーバー接続を使用する場合は、緑色の太枠部分「特定のユーザーID とパスワードを使用」を選択し、下記内容を入力します。

ユーザーID : dbcreator 権限を持つ User 名（例：「sa」）

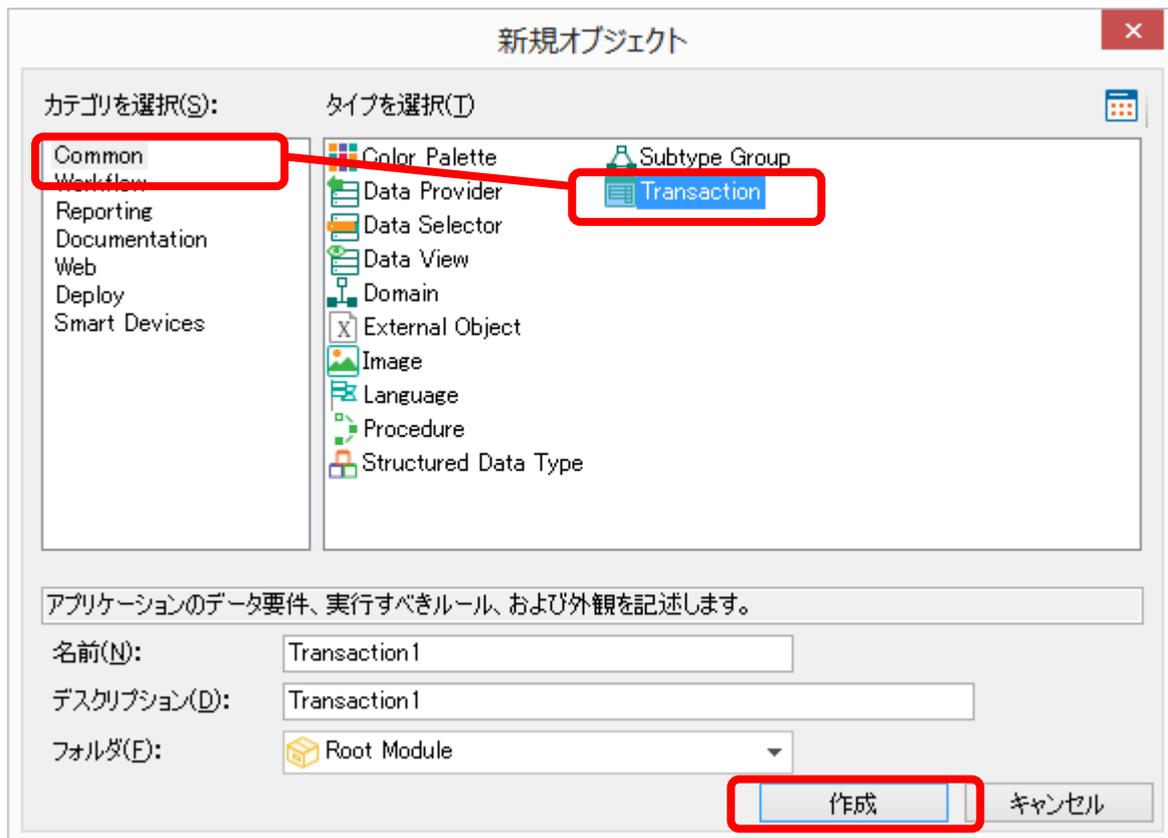
パスワード : 上記ユーザーID に対して設定したパスワード

③ 「作成」ボタンをクリックします。

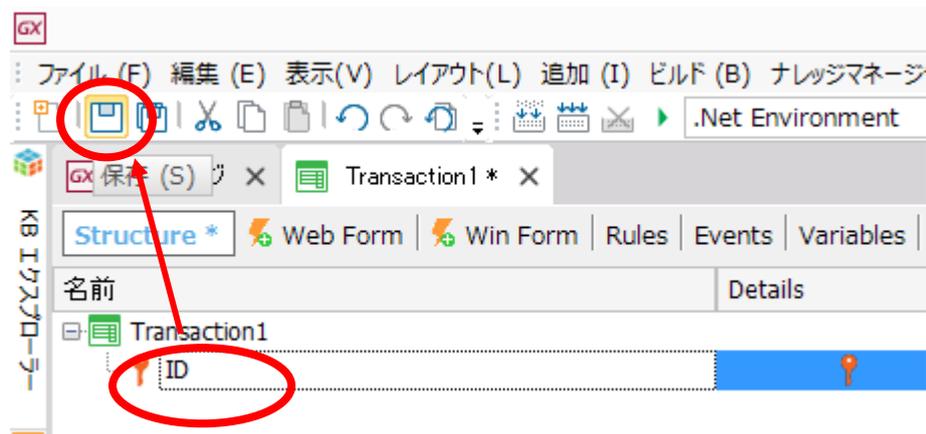
3. トランザクションオブジェクトを作成します。
下図の通り、「オブジェクト」を選択します。



4. 「Common」カテゴリの「Transaction」を選択して、作成ボタンをクリックします。

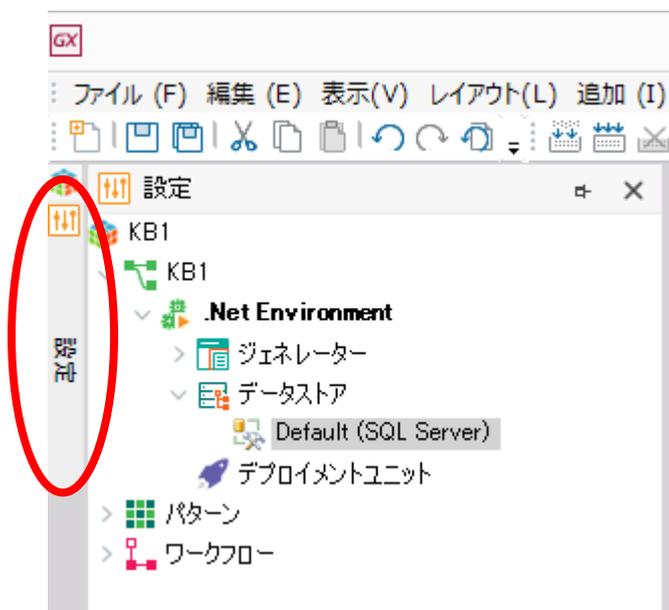


下図のように「ID」と入力し、保存ボタンをクリックします。



5. データベースの接続情報を設定します。

画面左側の設定アイコンをマウスオーバーし「設定ペイン」を表示させます。



もしくは



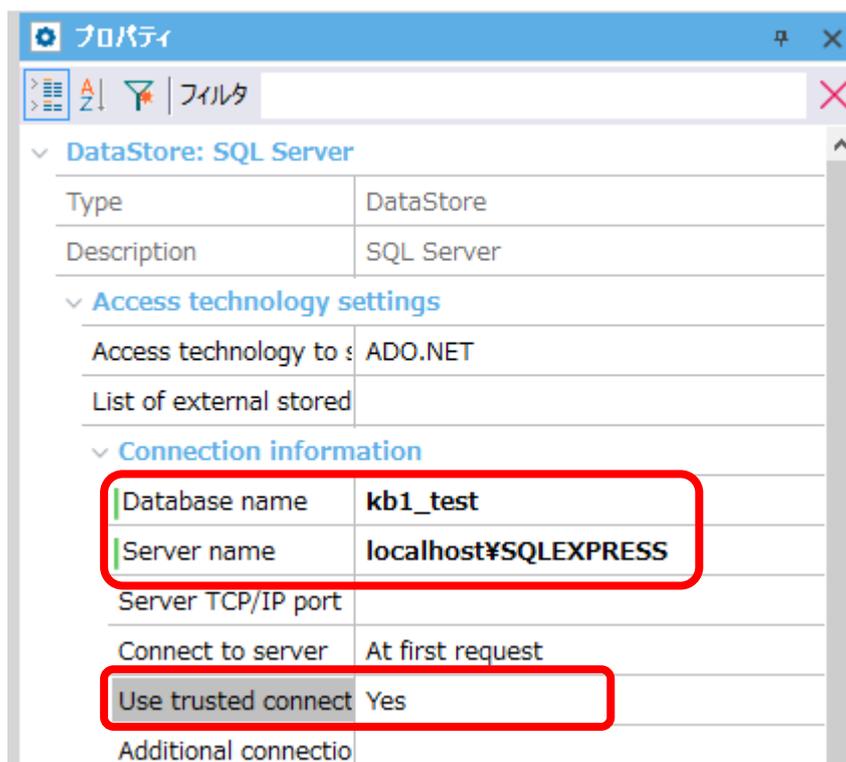


「>」をクリックしノードを開き「Default」を選択後キーボードのF 4キーを押します。

Windows 認証を利用する場合（2で「詳細」ボタンから設定変更をしなかった場合）：

Database name : kb1_test

Server name : localhost¥SQLEXPRESS⁴

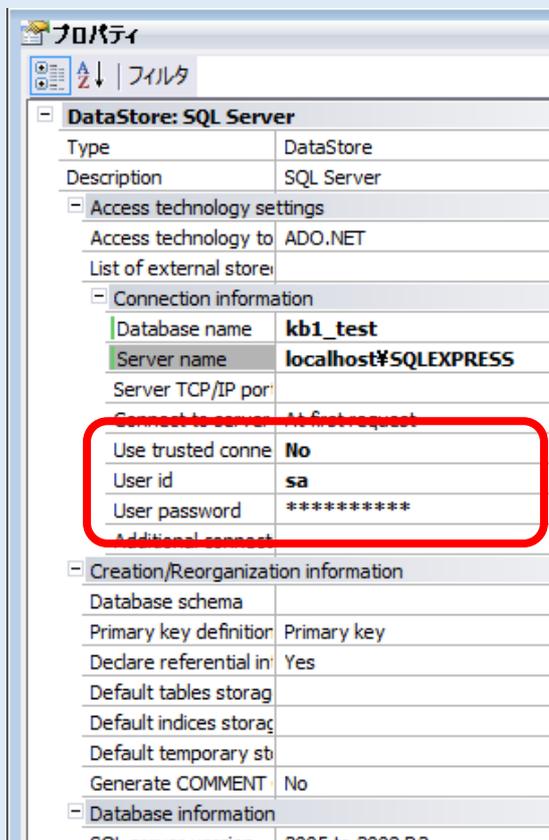


⁴ SQLserver のサーバー名です。SQLserver の Express 版の既定では「マシン名¥sqlexpress」です。

例 : localhost¥sqlexpress

■SQLserver 認証を利用する場合（手順2の「■（参考）SQL サーバーへの接続に「SQL サーバー接続」を利用するには」の設定が必要だった場合、もしくは SQLserver との接続による再編成エラーが発生した場合）：

[Database name]と[Server Name]のほか[Use trusted connection]プロパティを No にして[User id]および[User password]を設定します。



6. ビルドを実行します。



7. 下図の画面が表示されますので、「作成」をクリックし DB の作成を指示します。



8. 正しく作成されると、ブラウザが起動され、下図のような画面が表示されます（表示されない場合は、まず [A. GeneXus 利用環境とアプリケーション実行環境の準備](#) に戻り DB の接続情報と IIS の設定をご確認ください）。

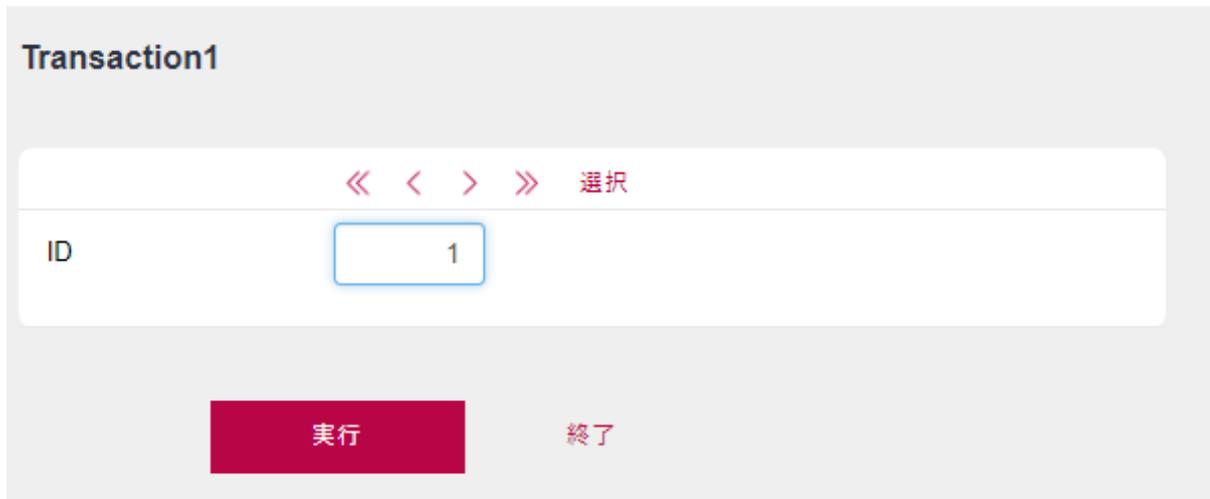


Browse Web Objects



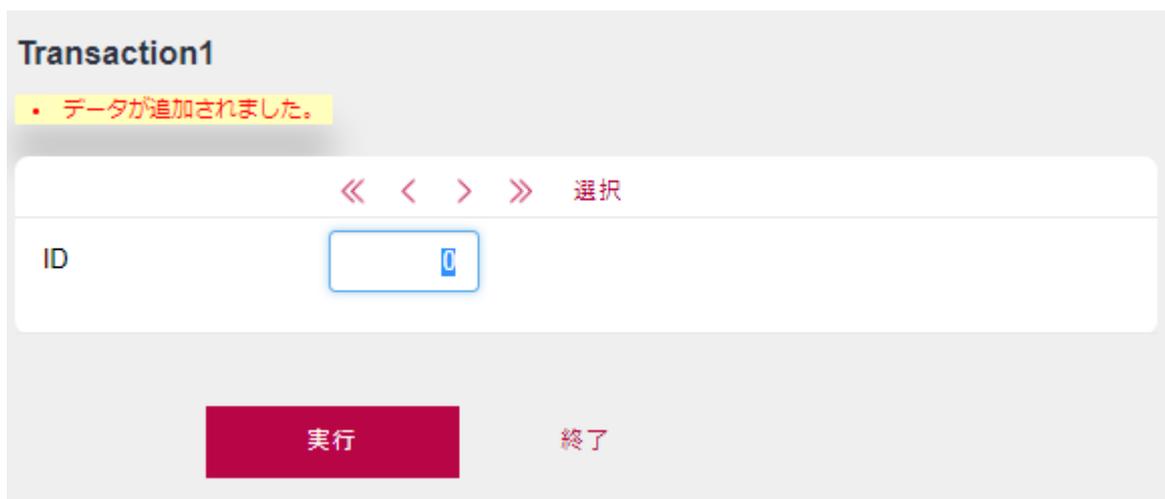
9. Transaction1 をクリックします。

10. ID に 1 を入力し、実行ボタンを押下します。



The screenshot shows a web interface titled "Transaction1". At the top, there is a navigation bar with four arrows (left, left, right, right) and the text "選択". Below this is a table with one row. The first column is labeled "ID" and the second column contains the number "1". At the bottom of the interface, there are two buttons: a red button labeled "実行" (Execute) and a grey button labeled "終了" (End).

11. 下図のように「*データが追加されました。」が表示されたら、環境の確認は終了です。お疲れさまでした。



The screenshot shows the same "Transaction1" interface as in step 10. A yellow message box at the top left contains the text "• データが追加されました。" (Data has been added.). The table below still has the "ID" column, but the value "1" is now highlighted with a blue border and a blue cursor. The "実行" (Execute) and "終了" (End) buttons remain at the bottom.

次のステップ：

教材の到着をお待ちください。

すでに教材を受領されている場合は、受講システムへのログインを確認します。詳しくは、弊社より送付しているメール「【GeneXus】eラーニング 受講システムへのログインアカウント発行のお知らせ」をご確認ください。（研修の動画は、お申込みの際の開講日に視聴可能になります。）